



子どもたちが自主的にのびのび過ごせる 平等で楽しい教育環境を

2022年10月末、コロナ感染に配慮しつつ、数年ぶりに教育福祉常任委員会の視察に行ってきました。それぞれすばらしい取り組みをしている関西の2つの学校で受けた刺激と、かねてからの疑問をもとに、様々な提案をしました。

「日本一自由な学校」きのくに子どもの村学園(和歌山県)

「体験から学ぶ」「話し合って決める」

授業は4種類

- ①プロジェクト
- ②基礎学習(ことば・数)
- ③チョイス(図工・音楽・美術)
- ④ミーティング

山中の校舎の寮で、小・中・高等専修学校の先生(大人)と生徒(子ども)が暮らす学校で、「自己決定」「個性化」「体験学習」を重視しています。先生と生徒の上下もなく、校長と他の先生の給料も同じで、徹底してみんな並列です。自由で楽しい学校をめざし、経験から学び、何でも話し合って決める教育に感激しました。



時間割の中身は、「うた」「ダンス」「しぜんあそび」「げき」「おにごっこ」「卓球」「登山家」「むかしのあそび」「針しごと」「えのぐでかこう」「ボールあそび」など！池や滑り台、小屋も作ります。算数や国語、英語なども、こういった体験学習のなかですべて個々のペースで学んでいきます。国が認可した私立学校です。

教室では、料理や劇など子ども達が思い思いに進んでおり、大人(先生)がいない部屋がほとんど！各々が自由に作業していました。5か国語を操るなどその道のプロの先生が多く、10%の子がいろいろな国へ留学するそうです。進路指導もなく、子ども達自身が決めますが、先生は相談には全力で応えてくれます。それぞれが地に足をつけて、選んだ学校や仕事でたくましく生きているそうです。こんな学校に行きたい！



153年の歴史をもつ正親小学校(京都市)

歴史的に地元の人がお金を出し合い学校を建てた背景があり、図書館ボランティアや色々な取組みに地域の人々が参加していました。街の通りに子どもが名前をつけたり、ハンターから逃げるゲームを通して町を知ったり、災害時の対応を学ぶなど、地元の人と交流しながら楽しく学んでいました。京都に関する検定もあり、歴史や地元への愛情が自然に育つ環境だと感じました。



地域の人々が作った「追憶の部屋」には、地域の文化を伝える物を展示

特産物の西陣織作りを体験(左)。蚕(右)を育てて、大人にして飛び立たせるか、命をもらい、糸を取らせてもらうかを子ども自身が決める「命の授業」を実施。



わたしの提案

- 1、**小中学校のいらない校則をなくし、自分で考える自由な環境に**
 シャーペン禁止、色ペン禁止、おしゃべりはだめ、靴下の色を限定、給食を食べてから一定時間着席しなければいけないなど、市内の学校にもおかしなルールがあります
- 2、**中学校でも、制服のほかに私服も選べるように**
 制服には憲法上も法律上も強制力はないという裁判結果も出ています。性別に関係なく制服を選べるようになってきていますが、「制服がイヤ」「自分らしくない」という違和感で不登校や死ぬほどの恥ずかしさを感じる人もいます。
- 3、**運動会や行事を子ども達にまかせて自主性を育てよう**
 (「きのくに子どもの村学園」を参考に)できる範囲で子ども達にまかせ、決まった応援合戦、振り付け、競技でなく、自分たちで話し合っ作りあげる経験を増やしては。
- 4、**来賓席をなくし、高齢者など色々な人と共有しよう**
 市議として来賓席にいと、テントで日差しも防ぐ特等席でダンスを見られます(上写真)。保護者の席はみんな立ち見で遠目に見ています。平等性の点でも、廃止し解放を。
- 5、**白井の産業や特産物について体験から学ぼう**
 (「正親小」を参考に)一日だけでなく、定期的に梨農家さんを手伝うなど、白井の農家と連携した食育や、仕事に参加して産業・文化を知る体験学習をふやしては。
- 6、**文化センター4施設を子ども達の教育のためにも守り生かそう**
 文化センターのあり方検討委員会はパブリックコメントもとらずに、各施設の縮小と廃止を提言。市の決定前にパブコメを実施し、子ども達も参加OKと周知を。大ホールで安く映画上映を。バスを増やし行きやすく。出張の郷土資料展示を。
- 7、**幼い頃からLGBT、ジェンダー平等の授業を**
 小学校前から性の違和感を感じる子も多く、身体と心が一致しない子の59%が自殺を考えたことがあり、自殺未遂や不登校になる子が30%近くという調査結果もあります。
- 8、**誰でも使える多目的トイレ・男女でわけない混合名簿を全校に**
- 9、**パートナーシップ・ファミリーシップ制度を**
 子どもの頃から、市が「どんなあなたでもいい」と権利を認め応援する姿勢を示し、教育もすることで、性の問題で命を絶ちたいと自己嫌悪に陥る人を減らしたいです。共産党市議団として「制度を作る準備に着手」するよう求める決議案を出し、全会派に説明して意見と賛同を求めましたが、反対多数で通りませんでした。あきれた市議会です。
- 10、**スクールサミットで子ども達が提案したことに、実現したもの、検討結果の返事を**
 市内小中学校の児童・生徒が市について調べて、たくさんの提案を発表しています。市長や教育長は、その努力と発想力をほめ、できるものは取り入れると言いますが、どれが採用されたのかはわかりません。すべてでなくとも、検討し、1つでも取り組むことを決めて、子ども達にも参加してもらって実行するべきでは。それが市民参加であり、将来も白井市政に関心をもってもらうことにつながると考えます。



来賓席から見た運動会



↑保護者席から見たダンス



↑立ち見の保護者

